



日本パーソナリティ心理学会第 29 回大会 ご挨拶

このたび、日本パーソナリティ心理学会第 29 回大会を和光大学でお引き受けさせていただきました。本学で、日本パーソナリティ学会規模の大会を開催することは珍しく、そのノウハウもないなか、昨年の大会終了後から、準備をしてまいりました。会場となる教室の予約に伴う関係部署との調整、大会キャラクターの作成、懇親会会場の予約など、できることから少しずつ行い、いよいよ予約参加やポスター発表の申込など、大会に向けた動きが本格化するころに、新型コロナウイルスの感染が拡大し、学校の臨時長期休業、緊急事態宣言、大学の授業開始の延期とオンライン授業化と、目まぐるしく状況が変わっていきました。そのようななか、本大会も例年のように、全国からご参集いただくことは困難と判断し、テレビ会議システムを用いたオンラインでの開催となりました。

オンラインという限られた状況のなかで、できることを模索しました。準備委員会企画として、内田良先生(名古屋大学大学院)をお招きし、「学校の日常を「見える化」する：持続可能な教育を求めて」というタイトルで、名古屋よりオンラインでのご講演をいただきます。また、経常的研究交流委員会企画として Jason Rentfrow 先生(University of Cambridge)によるご講演をいただきます。Rentfrow 先生には、事前にご講演を録画していただき、大会時には参加者が同時にその動画を視聴し、司会を務める小塩真司先生(早稲田大学)を中心に質疑応答・ディスカッションをする予定です。経常的研究交流委員会の企画によるシンポジウムも開催いたします。ポスター発表も 73 件のお申し込みをいただきました。今回は掲示板などを用いた質疑応答ではなく、オンラインでの(ライブでの)研究発表と質疑応答を行っていただくことにしました。リアルの大会のように、ライブでの質疑応答を通して、みなさまの研究の発展につながることを期待しています。1 日目の最後には、オンラインでの懇親会も開催します。

本大会は、和光大学のユニバーシティ・アイデンティティ(UI)である「異質力で、輝く。」にあわせて、「異質力で輝くパーソナリティ研究を目指して」を大会テーマとして掲げました。従来通りの大会であれば、このテーマにあった講演やシンポジウムも開催する予定でしたが、オンラインでの開催となり、複数の企画が同時に進行する状態をうまく管理できない恐れがあったため、断念いたしました。参加されるみなさまにとっては、やや物足りなさを感じるプログラムになっているかもしれません。しかし、今回のオンラインでの開催は、今後の学術大会の新たな形の構築に向けた試金石となると考えています。そのため、最後まで滞りなく今大会を終えることができることに専念させていただきたいと思えます。

和光大学は東京都町田市と神奈川県川崎市にまたがって立地しており、横浜市にも隣接しています。大学近隣には希少種も生育する自然豊かな地域で、天候に恵まれれば、遠くに富士山を望むこともできます。このような自然豊かな和光大学でみなさまにお会いできないのは残念ですが、オンライン上で、みなさまが充実した時間を過ごせるよう、努めてまいりたいと思えます。みなさまの参加を心よりお待ちしております。

日本パーソナリティ心理学会第 29 回大会準備委員会
委員長 高坂 康雅

大会日程

9月11日(金)

9月12日(土)

9:00		
10:00	ポスター発表① 9:30～11:30 Remo	ポスター発表③ 9:30～11:30 Remo
11:00		
12:00		
12:00	総会 12:00～12:50 zoom	経常的研究交流委員会 企画講演 12:30～14:00 zoom
13:00	大会準備委員会 企画講演 13:00～15:00 zoom	
14:00		経常的研究交流委員会 企画シンポジウム 14:30～16:30 zoom
15:00		
16:00	ポスター発表② 15:30～17:30 Remo	
17:00		
18:00	オンライン懇親会 18:00～ Remo	

※受付などの必要はありません。各企画開始 10 分前に申込時にお書きいただいたメールアドレスにテレビ会議システムに入るための URL をお送りします。その URL からお入りください。なお、テレビ会議システムにつきましては、P.3 をご確認ください。

大会参加者へのご案内

1. 会期

2020年9月11日(金)・12日(土)

2. 大会参加に関する諸費用

費目	区分	金額
大会参加費	一般会員	9,000円
	院生会員	7,000円
	学生会員	2,000円
	非会員(一般)	10,000円
	非会員(院生)	8,000円
発表論文集	予約注文のみ	5,000円
	機関購入	6,000円

- 本大会では、当日参加は受け付けておりません。大会への参加を予定している方は、必ず**9月7日(月)**までに参加申込・入金を行ってください。
- 発表費用は参加費に含まれます。
- 大会に参加されない非会員の連名者の費用は不要です。
- 冊子形式の発表論文集は申込数に応じて印刷し、1冊5,000円(消費税・送料込み)で予約販売いたします。会期中および会期後の販売はいたしませんので、ご注意ください。大会に参加される方で論文集冊子の購入をされる方は、大会公式サイトから参加申込時に購入冊数を入力してください。機関購入や、大会に参加せずに論文集冊子のみ購入される方は、8月14日までに別途ヘルプデスク(jspp-desk@bunken.co.jp)にメールにてお申し込みください。
- 本大会では、会場型の懇親会を行わず、オンラインでの懇親会を行います。懇親会には、大会に参加される方はどなたでも参加できます。また、懇親会の参加にあたり、費用は不要です。
- 一旦お振り込みいただいた参加費につきましては、後日、ご参加を取りやめた場合も返金に応じませんので、ご了承ください。

3. 大会への参加方法

本大会では、ポスター発表及び懇親会はテレビ会議システム・Remo(リモ)、それ以外のプログラムはテレビ会議システム・zoomを使用して、リアルタイムでの開催をいたします。Remoにはブラウザでの接続が可能です。参加される方は、事前にRemoのアカウントを作成してください(googleアカウントがあると、Remoのアカウントは簡単に作成できます)。

<https://remo.co/>

また、zoom については、専用ソフトの利用を推奨しますが、ブラウザでも接続が可能です。また、専用ソフトはアップデートをし、最新のバージョンで接続してください。zoom を初めて利用される方は、以下の URL より事前に接続テストを行ってください。

<https://zoom.us/test>

各プログラムの 10 分前に、メールにて、zoom 会議 URL または Remo 会議 URL をお送りします。URL は各プログラムで異なりますので、プログラムごとに送られてくる URL から接続してください。なお、URL はご自身のみで使用し、大会に参加されない方にお伝えしないようお願いいたします。また、アカウント名は、実名(漢字、ひらがな、ローマ字は問わない)を使用してください。カメラのオン/オフにつきましては、適宜ご判断ください。総会や講演、シンポジウムの間は、発言者以外はミュートにさせていただきますようお願いいたします。

大会参加に関わるインターネット環境の整備は参加者各自で行ってください。また、大会参加に関わる通信費等の費用は、参加者をご負担ください。

4. 展示・書籍販売

オンライン上での展示・販売ができるよう検討しております。詳細は大会 HP でご確認ください。

5. その他の注意点

大会期間中、発表の録音および録画、撮影などを行う場合は、発表者の許可を得るようにしてください。また、Twitter や Facebook など第三者が閲覧できるメディアに他者の発表に関する内容を発信する場合は、発表者や他の参加者の気分を害することがないように願います。

6. 大会関連行事のご案内

総会

大会 1 日目(9 月 11 日(金)) 12 時より zoom にて開催いたします。開催 10 分前に zoom の URL をお送りしますので、ご出席ください。なお、zoom の URL は大会参加者全員にお送りしますが、総会に出席できるのは、日本パーソナリティ心理学会会員のみとなります。非会員の大会参加者にも URL は送られますが、総会への出席はご遠慮ください。

懇親会

大会 1 日目(9 月 11 日(金)) 18 時より Remo にて開催いたします。開催 10 分前に Remo の URL をお送りしますので、ご参加ください。費用はかかりません。

各賞授与式

大会 1 日目(9 月 11 日(金)) の総会にて優秀大会発表賞、並びに学会賞・奨励賞の発表を行います。大会 1 日目の懇親会にて、受賞者からご挨拶をいただきます。

理事会

理事会につきましては、大会前日の9月10日(木)に開催する準備を進めております。詳細は、別途、学会事務局より理事・監事の皆様にご連絡いたします。

ヤングサイコロジストプログラム(YPP2020)

大会前日(9月10日(木)) 17時~20時に zoom を用いて行います。詳細は P.7~8 をご覧ください。また、学会 HP 内の 2020 年度ヤングサイコロジストプログラム(YPP2020)もあわせてご覧ください(https://jspp.gr.jp/sympo/wk_r2/)。

ミドルサイコロジストプログラム(MPP2020)

今大会での開催はありません。

7. 各種更新ポイントについて

本大会は臨床心理士の資格更新ポイントの対象となっております。臨床心理士に関しては、「日本臨床心理士資格認定協会：臨床心理士資格更新制度」の「3 本協会が認める関連学会での諸活動への参加」に該当します。

発表者へのご案内

1. ポスター発表

- 今大会のポスター発表は、3セッションとなります。日時は「大会日程」をご覧ください。
- 今大会では、発表者はポスターを作成する必要はありません。ただし、研究発表や質疑応答に向けて、資料などを事前にご用意いただくことを推奨します。
- 発表1件に対してRemoのブレイクアウトルームを1つ割り当てます(一連発表の場合は、複数発表に対してブレイクアウトルームは1つとなります)。発表者は在籍責任時間までに、Remoにログインし、指定されたブレイクアウトルームに入室してください。
- 発表者は、在席責任時間(奇数番号はセッション開始後60分、偶数番号はセッション終了前60分)の間、指定されたブレイクアウトルームに在室し、質疑応答に応じる必要があります。その際、必要に応じて事前に作成した資料などを共有していただいて構いません。
- セッション終了時刻になりましたら、Remoは強制的に終了します。
- 責任発表者がやむを得ない事情により欠席する場合、事前に大会準備委員会の承認を得て、連名発表者が発表を代行することができます。ただし、承認がない場合、正式な発表として認められない場合がありますので、ご注意ください。代行や発表取り消しについては、事前に大会準備委員会(29jspp2020@gmail.com)までご連絡ください。
- 今大会でも、優秀大会発表賞を設けます。例年通り、抄録原稿を対象とした一次審査と、当日の発表に使用するポスターを対象とした二次審査による二段階審査で受賞者を決定します。また本年度はオンライン開催の特長を活かし、二次審査は大会参加者による投票で行います。

2. 準備委員会企画・各種委員会企画

- 開催10分前になりましたら、メールでzoomのURLをお送りしますので、そのURLからzoomに入室してください。
- スライドなどはその場で画面共有をしていただきますので、事前に提出・アップロードの必要はありません。事前に大会参加者への配布を希望される場合は、大会準備委員会(29jspp2020@gmail.com)までご連絡ください。

2020 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2020)

日本パーソナリティ心理学会では毎年、若手研究者同士の議論や交流、情報交換の場として、年次大会の前日にヤングサイコロジストプログラム (YPP) を開催しています。2020 年度の YPP は、「研究のスキルアップを目指して」をテーマに開催いたします。若手研究者である講演者のこれまでの経験をうかがえたり、同世代の研究者同士の交流を深められたりと、充実したプログラムをご用意しておりますので、奮ってご参加ください。

1. 開催日時：2020 年 9 月 10 日 (木) 17:00 ~ 20:00 (予定)

※パーソナリティ心理学会年次大会 (2020 年 9 月 11 日 (金)・12 日 (土)) の前日です。

※途中参加・途中退出も可能ですので、ご希望の方はお気軽にご連絡ください。

2. 開催場所：Zoom を用いてオンラインでの開催 (詳細は参加登録をされた方にお送りします)

※後日お知らせする URL をクリックすることで参加できます (アプリをダウンロードするなどの準備は必要ありません)。

※当日, Zoom に関して問題があった場合は、企画担当 (jspp.wk@gmail.com) にご連絡ください。

3. 参加資格：学部・大学院に在籍中の学生 or 学部卒業・大学院修了/退学後 5 年以内の方

※パーソナリティ心理学会員以外の方も歓迎します。

4. 参加費：無料

5. 申込方法：

下記の URL にアクセスし、応募フォームに従って申込みをお願いいたします。

<応募フォーム： <https://forms.gle/TcsAV4gCjKUYX4gA6>>

※詳細は、日本パーソナリティ心理学会 WEB サイトの「2020 年度ヤングサイコロジストプログラム (YPP2020) よりご確認ください (https://jspp.gr.jp/sympo/wk_r2/)。

6. 申込締切日：2020 年 8 月 10 日 (月)

7. 企画内容：

企画 1：若手会員による講演&ディスカッション

「研究のスキルアップを目指して」というテーマに関し、宇都宮大学の久保田愛子先生にご講演いただきます。卒業論文の執筆から博士論文の執筆、および国内の論文雑誌への投稿に関して、経験談を交えながらアドバイスをいただく予定です。

なお、事前に久保田先生への質問を受け付けておりますので、ご希望の方は応募フォームの記入欄に自由にご記入ください。

企画2：ミニ研究発表セッション

いくつかのグループに分かれ、その中で発表を希望する方がご自身の研究や興味のある分野について紹介し、発展のさせ方、深め方、応用の仕方についての意見交換を行うことができます（各発表者につき20分程度）。

※発表希望に関しては事前にお伺いします。

※発表希望の申し込み人数が多数の場合は、時間の関係上、やむをえず先着順とさせていただく場合もございます。

※発表者となった方は、ご自身の研究紹介に役立つ資料（学会発表等で用いたポスターや、ゼミの資料等）をご用意ください。

連絡先：jspp.wk@gmail.com

企画：唐 音啓（東京大学・企画担当代表）、木田 千裕（名古屋大学）、ケイン 聡一（広島大学）、ターン有加里ジェシカ（東京大学）

主催：日本パーソナリティ心理学会広報委員会

大会準備委員会企画講演

学校の日常を「見える化」する：持続可能な教育を求めて

講演者：内田 良(名古屋大学大学院)

企画：日本パーソナリティ心理学会第29回大会準備委員会

司会：高坂康雅(和光大学)

講演概要

「子どものため」というフレーズは、巨大組み体操や体罰などがそうであるように、子どもが受ける不利益を正当化してきました。また教員においても、「子どものため」にお金や時間に関係なく働く姿が理想視され、過労の問題が見過ごされてきました。「教育」という営みはときに、その負の側面を見えにくくさせます。それら学校教育のリスクを、最新のエビデンスによって「見える化」し、子どもと教員の両者にとって安全・安心な教育活動のあり方を展望します。

講演者紹介

学校や家族に関わる社会問題について、社会学の立場からアプローチをしている。現在は特に「学校リスク」(学校事故, 学校安全)について重点的に研究を行っている。その知見は、書籍はもちろん、Twitter や Yahoo!ニュース「リスクリポート」、YouTube(内田良チャンネル)などを通して、広められている。

主著等

『学校ハラスメント 暴力・セクハラ・部活動 なぜ教育は「行き過ぎる」のか』(朝日新聞出版, 2019年)

『教師のブラック残業 「定額働かせ放題」を強いる特給法とは?!』(学陽書房, 2018年)

『ブラック部活動』(東洋館出版社, 2017年)

など多数。

経常的研究交流委員会企画講演

Geographical Psychology: Causes & Consequences of Spatial Variation in Psychological Phenomena (地域的心理学—心理現象の空間的分散における原因と結果—)

講演者: Jason Rentfrow (University of Cambridge)

企画: 日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会: 小塩真司 (早稲田大学)

講演要旨

There is geographical variation in the ways in which people think, feel, and behave. How are we to understand the causes and consequences of such variation? Geographical psychology is an emerging subarea of research concerned with the spatial organization of psychological phenomena and how individual characteristics, social entities, and physical features of the environment contribute to their organization. In this presentation, I will discuss research conducted at multiple levels of analysis which shows that social influence, ecological influence, and selective migration are key mechanisms that contribute to the spatial clustering of psychological characteristics. Investigations in multiple countries show that the psychological characteristics common in regions are linked to important political, economic, and health indicators. Furthermore, results from large multi-level studies show that the psychological characteristics of individuals interact with features of the local environment to impact psychological development, well-being, economic prosperity, and political outcomes.

講演者紹介

Dr. Rentfrow はテキサス大学オースティン校で Sam Gosling 教授や Bill Swann 教授の指導の下で博士号の学位を取得し、現在はケンブリッジ大学心理学部においてパーソナリティと個人差コースの Reader, また複数の機関でリサーチフェローも務める研究者である。Dr. Rentfrow の研究の関心は、人と環境との相互作用の中で、基本的な心理特性と社会における各種プロセスとの関連を検討することにある。これまで、音楽の好み、映画の好み、政治的イデオロギー、一国内の地理的な分散などに注目し、パーソナリティ研究の領域で先駆的な研究を行ってきた。

Cambridge Personality and Social Dynamics Research Group : <https://www.psd.psychol.cam.ac.uk>

書籍

Rentfrow, P. J. & Levitin, D. J. (Eds.) (2019). Foundations of music psychology: Theory and research. Cambridge: MIT Press.

主要業績は web サイトをご覧ください : <https://www.psd.psychol.cam.ac.uk/publications>

※本講演は英語による講演動画を視聴したのち、司会を中心として日本語で質疑応答・ディスカッションを行います。

経常的研究交流委員会企画シンポジウム

リスクと不安と私たち

—東日本大震災そして新型コロナウイルス—

企画者：日本パーソナリティ心理学会経常的研究交流委員会

司会者：永井 智 (立正大学)

話題提供者：福川康之 (早稲田大学), 工藤大介 (東海学院大学),
元吉忠寛 (関西大学)

指定討論者：楠見 孝 (京都大学)

1. 企画主旨

リスク状況において、人間は合理的な判断を行うことが期待されている。しかし2011年の東日本大震災や、2020年に全世界で猛威を振るった新型コロナウイルスの問題をはじめとして、脅威やリスクに直面した際、人間が適切な判断・行動を実行することは難しいことも、我々は身をもって知っている。不確定な情報や不安のある中においては、そもそも何が適切な判断・行動なのかも定かではなく、誤った情報の氾濫やそれに基づく不合理な行動、特定の人々への偏見やバッシングなどの現象がしばしば問題となっている。

こうした現象は、これまで心理学の中で様々な観点から研究がおこなわれてきた。現在われわれの直面している状況はまさに、これまでの心理学研究の成果が試されているともいえる。

本企画では、こうしたリスク状況における人間の反応・判断に注目し、行動免疫等進化的な観点や意思決定等の観点からメカニズムを理解するとともに、リスク状況における望ましい対応の在り方等について、様々な研究をもとに議論していきたい。

2. 話題提供者の要旨

2.1. リスク状況におけるヒトの反応と判断について：行動免疫の観点から

福川康之 (早稲田大学)

人類の進化の歴史は感染症との闘いの歴史でもあった。例えば、衣 (体毛喪失)、食 (加熱処理)、住 (人口過密) といった我々の文化の根幹は、いずれもウイルスや細菌などの病原体との「軍拡競争」の過程で構築されてきた。近年、こうした感染症への罹患リスクに対する心的

機制として、行動免疫 (Behavioral Immune System) という概念が提唱されている (Schaller, 2006)。行動免疫は、ゴキブリ、腐敗物、不潔な環境など、感染リスクを高める対象ないし状況への嫌悪・不安感情を喚起し、回避行動を促すことで、ヒトという種の適応 (すなわち進化) に貢献してきた心的機能ということができる。

しかしながら一方で、行動免疫は、ウイルスキャリア (とみなされる対象) への差別や偏見を助長する可能性が指摘されている。例えば東日本大震災のとき、放射能があたかもウイルスのように感染すると風評が立ったため、被災した児童が転校先でいじめられたり、被災地の野菜が売れなくなったりした。

話題提供者は、行動免疫を測定する尺度を作成し、これを用いた研究を進めてきた (e.g., 福川・小田・宇佐美・川人, 2014)。そこで本シンポジウムでは、行動免疫の進化的基盤とその現代的意義について論じてみたいと思う。コロナ禍と呼ばれる状況を通じて生活様式の再構築が求められるようになった現在、我々が進化の過程で身に着けた行動免疫という心的機制について知っておくことは重要である。当日は、参加者との議論を通じて、ポストコロナ/ウィズコロナ社会に再適応するためのヒントが得られることを期待している。

引用文献

福川康之・小田 亮・宇佐美尋子・川人潤子 (2014). 感染脆弱意識 (PVD) 尺度日本語版の作成. *心理学研究*, 85, 188–195.

Schaller, M. (2006). Parasites, behavioral defenses, and the social psychological mechanisms through which cultures are evoked. *Psychological Inquiry*, 17, 96–101.

2.2. リスク状況下における消費者の意思決定について

工藤大介 (東海学院大学)

新型コロナウイルス感染症の流行により、感染者や医療従事者への差別やバッシング、感染発生地域への観光を控える動きが見られている。勿論、経済の萎縮による影響も考えられるが、感染リスクを回避するという消費者心理の影響も考えられる。本報告では、感染症の流行といった、リスク状況下における消費者心理と意思決定について取り上げる。特に、我々がこれまでに行ってきた、東日本大震災後の風評被害における研究を紹介し、新型コロナウイルス感染症流行への適用可能性を考えていく。

本報告では2つの大きな研究の枠組みを紹介していく。1つ目は、東日本大震災に伴う風評被害を対象に、その心理的な規定因の検討を行った一連の研究である (e.g., 工藤・中谷内, 2014)。ここでは、二重過程理論 (e.g., Evans, 2008)に着目し、2つの意思決定モードから風評被害の発生について説明を行った。

2つ目は、風評被害の低減に向けてどのようなメッセージの提示が効果的か検討を行った一連の研究である (e.g., Kudo & Nagaya, 2017)。工藤・中谷内 (2014)などから、東日本大震災時の風評被害は、消費者の感情的意思決定モードに関連する要因に規定されるとの知見が得られた。その感情的な意思決定の側面に対し、感情に訴求するメッセージと、論理的な訴求を行うメッセージとでは、どちらが効果的か比較を行った。その結果、論理的なメッセージが効果的となり、災害後の風評被害という文脈では、規定因と不一致な訴求 (cf. 不一致効果: Millar & Millar, 1990)を行うメッセージが有効との知見が得られた。これら2つの研究の知見を元に、新型コロナウイルス感染症の流行に伴う、消費者心理・意思決定に関して分析を行い、どのような対応策が執れるか考察していく。

引用文献

工藤大介・中谷内一也 (2014). 東日本大震災に伴う風評被害：買い控えを引き起こす消費者要因の検討 社会心理学研究, 30(1), 35-44.

Kudo, D. & Nagaya, K. (2017). Effects of Matching and Mismatching Messages on Purchase Avoidance Behavior following Major Disasters. *Psychology & Marketing*, 34(3), 335-346.

2.3. リスク教育と災害自己効力感の涵養

元吉忠寛 (関西大学)

感染症の流行や大災害の後などのリスク状況下において適切な判断や行動をするためには、リスクに関する正しい知識を持つことや、批判的思考態度やリスクリテラシーを高めることが重要である (元吉, 2013)。このようなアプローチは、二重過程理論における論理的、熟慮的なシステム2への働きかけを行うことによって合理的な意思決定を導こうとするものであり、その有効性は、いくつかの研究で示されている (e.g., 工藤・中谷内, 2014; 三浦ほか, 2016)。

適切なリスクの理解に焦点をあてたアプローチが重要であることはいままでの間でもないが、同時に重要なのは、そのような状況の中で自分が何をすべきか、どうすればリスクから身を守ることができるのかという具体的な知識やスキルを身につけ、それを実行することができるようになることである。元吉 (2019)は、災害の発生時に、どの程度適切な行動を取ることができるか、また災害を生き抜くことができるかと思うかということに対する自信を災害自己効力感と定義し、この概念の尺度作成と妥当性の検証を行った。

本報告では、災害自己効力感がコロナ禍の不安や抑うつ傾向を緩和する可能性があるか、また、どのようなストレスコーピングが実行されやすいのかについて最新のデータに基づき報告する。さらに、コロナ禍に求められる他者に対する寛容さと深く関わる概念と位置づけられる共同体感覚 (高坂, 2011)との関連についても考察した上で、災害自己効力感の涵養について議論したい。

引用文献

高坂康雅 (2011). 共同体感覚尺度の作成 教育心理学研究, 59, 88-99.

三浦麻子・楠見 孝・小倉加奈代 (2016). 福島第一原発事故による放射線災害地域の食品に対する態度を規定する要因：4波パネル調査による検討 社会心理学研究, 32, 10-21.

元吉忠寛 (2013). リスク教育と防災教育 教育心理学年報, 52, 153-161.

元吉忠寛 (2019). 災害自己効力感尺度の開発 社会安全学研究, 9, 103-117.

ポスター発表 1 9月11日(金) オンライン開場時間：9時30分～11時30分

在席責任時間 奇数番号：9時30分～10時30分 偶数番号：10時30分～11時30分

※番号の下の(BR●)は Remo でのブレイクアウトルームの番号です。

※#は非会員

1-1 (BR1)	紙筆版 IAT を用いた英語への潜在的な態度 と成績の関連	三和秀平 地頭所里紗# 赤松大輔	信州大学 龍谷大学 / 神戸大学大学院 名古屋大学 / 日本学術振興会
1-2 (BR2)	親の自閉症的行動特性と養育ニーズとの 関連 — 日本語版 Parenting Needs Questionnaire を用いた検討—	齊藤彩 坂田侑奈 佐藤みのり 原口英之# 松本聡子#	お茶の水女子大学 お茶の水女子大学大学院 お茶の水女子大学大学院 / 医療 法人社団心癒会しのだの森ホス ピタル 国立精神・神経医療研究センタ ー精神保健研究所 お茶の水女子大学
1-3 (BR3)	教師は「考え、議論する」道徳授業を実施 するための教員研修において何を期待す るか？	藤澤文	鎌倉女子大学
1-4 (BR4)	幼児の知覚した共感及び目標サポートが 動機づけに及ぼす影響	小池はるか	東海大学短期大学部
1-5 (BR5)	体験を見つめることと well-being の関連— Experience Sampling Method による縦断的 検討—	高田圭二 杉浦義典	立教大学 広島大学大学院
1-6 (BR6)	学級担任と児童の性格上の相性が非認知 能力育成に与える影響	石川雄一 小林亮博# 中里忍# 野口祐子# 山下明子#	株式会社 KDDI 総合研究所 株式会社 KDDI 総合研究所 Institution for a Global Society 株 式会社 Institution for a Global Society 株 式会社 KDDI 株式会社
1-7 (BR7)	感謝が向社会的行動に及ぼす影響—向社 会的思考を媒介要因として—	小國龍治 大竹恵子	関西学院大学 関西学院大学
1-8 (BR8)	大学生の境界例心性とソーシャル・サポー トの互惠性の関係について	黒河葵	就実大学大学院
1-9 (BR9)	学習スタイルによる学習方略の有用性の 差異について—パフォーマンスに至る因果 モデルの検証—	田原浩章 伊藤崇達	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究 院 #

1-10 (BR10)	若年労働者のパーソナリティ構造—わが国の代表的尺度を用いた確証的因子分析を通して—	鈴木智之 城戸楓# 池尻良平# 田中聡# 池田めぐみ# 山内祐平# 土屋裕介# 今井良#	東京大学 東京大学 東京大学 立教大学 東京大学 東京大学 株式会社マイナビ教育研修事業部 株式会社マイナビ教育研修事業部
1-11 (BR11)	小学生の Grit(やり抜く力)と安心感・チャレンジ精神との関連	藤原寿幸 河村茂雄#	東京福祉大学教育学部 早稲田大学 教育・総合科学学術院
1-12 (BR12)	大学生における「母性愛」信奉傾向と養護性の関連—男女および保育系学生と一般学生による違い—	扇原貴志	東京学芸大学
1-13 (BR13)	海外留学が高校生の英語学習方略の使用に与える影響—留学中の学習観の変化に着目して—	赤松大輔 中谷素之 川本健太郎#	名古屋大学大学院 名古屋大学大学院 立命館宇治中学校・高等学校
1-14 (BR14)	日本語版 5DCR 尺度(The Five-Dimensional Curiosity Scale-Revised)の開発—好奇心の領域とタイプについて—	西川一二	京都大学教育学研究科
1-15 (BR15)	気質特徴に適合した親子ふれあい遊び体験の養育者への効果—子どもの気質タイプ別養育者の育児不安・育児自己効力感への効果—	武井祐子 門田昌子 奥富庸一 竹内いつ子 岩藤百香# 岡野維新 寺崎正治	川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 立正大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学 川崎医療福祉大学
1-16 (BR16)	大学生の発達障害者観に影響を与える要因	岡田有司	東京都立大学大学教育センター
1-17 (BR17)	大学生の留学体験における異文化適応の測定 (1) —社会文化的適応尺度 (SCAS-R) 日本語版作成の試み—	沼田真美 小田切紀子 Erik Noffle#	大妻女子大学 東京国際大学 Willamette University
1-18 (BR17)	大学生の留学体験における異文化適応の測定 (2) —社会文化的適応と性格特性および留学満足度との関連—	小田切紀子 沼田真美 Erik Noffle#	東京国際大学 大妻女子大学 Willamette University

1-19 (BR18)	中学生における教師からの欲求支援行動 と学習行動との関連—制御焦点に着目し て—	海沼亮 外山美樹 長峯聖人 湯立 三和秀平 相川充#	筑波大学大学院人間総合科学研究科／教育テスト研究センター 筑波大学人間系／教育テスト研究センター 筑波大学大学院人間総合科学研究科／教育テスト研究センター 筑波大学人間系／教育テスト研究センター 信州大学学術研究院教育学系／教育テスト研究センター 筑波大学人間系／教育テスト研究センター
1-20 (BR19)	科学教育における 21 世紀型スキル—大学 生を対象にした実態調査—	谷口弘一	岡山理科大学
1-21 (BR20)	点数表記の有無が達成動機づけに及ぼす 影響	西山亮 伊藤崇達	九州大学大学院人間環境学府 九州大学大学院人間環境学研究院
1-22 (BR21)	学習中ユーザの可視化は効力期待の低い 学習者の学習行動を促進する	澤山郁夫 三宮真智子# 寺澤孝文#	兵庫教育大学 大阪大学 岡山大学
1-23 (BR22)	祖父母養育行動および祖父母-子ども関係 と子どもの向社会性との関連	毛依文	お茶の水女子大学大学院人間文化創成研究科
1-24 (BR23)	共働き夫婦のコペアレンティングと就学 前の子どもの適応	小林聡子	お茶の水女子大学大学院

ポスター発表2 9月11日(金) オンライン開場時間：15時30分～17時30分

在席責任時間 奇数番号：15時30分～16時30分 偶数番号：16時30分～17時30分

※番号の下の(BR●)は Remo でのブレイクアウトルームの番号です。

※#は非会員

2-1 (BR1)	プライバシー意識の日米独比較—GDPRに 対する理解の違いに着目して—	太幡直也 佐藤広英 金森祥子# 野島良# 盛合志帆#	愛知学院大学／国立研究開発法 人情報通信研究機構 信州大学／国立研究開発法人情 報通信研究機構 国立研究開発法人情報通信研究 機構 国立研究開発法人情報通信研究 機構 国立研究開発法人情報通信研究 機構
2-2 (BR2)	情報プライバシーとプライバシーポリシ ーの理解度，評価との関連	佐藤広英 太幡直也 金森祥子# 野島良#	信州大学／国立研究開発法人情 報通信研究機構 愛知学院大学／国立研究開発法 人情報通信研究機構 国立研究開発法人情報通信研究 機構 国立研究開発法人情報通信研究 機構
2-3 (BR3)	ゲーム没入感尺度(GEQ)日本語版開発の試 み	山本晃輔 曾我千亜紀# Menant Julien#	大阪産業大学 大阪産業大学 大阪産業大学
2-4 (BR4)	あおり運転を予測するパーソナリティ要 因の探索的検討—センセーションシーキ ングやダークトライアド，交通事故の過失 帰属との関連—	福井義一	甲南大学
2-5 (BR5)	落ち込みは「理想の人」からの目移りを促 す—抑うつ気分と焦点目標の理想度が目 標保護に及ぼす影響—	服部陽介	京都先端科学大学
2-6 (BR6)	交通安全マップ作成活動の教育効果の検 証 (1) —交通安全意識尺度の作成と信頼 性・妥当性の検討—	大久保智生	香川大学教育学部
2-7 (BR7)	向社会的行動の動機づけ尺度作成の試み	山本琢俣 上淵寿	早稲田大学／日本学術振興会 早稲田大学

2-8 (BR8)	好きな色で性格はわかる？—巷の心理テストを超えて—	鈴木公啓	東京未来大学
2-9 (BR9)	本来感および「ふつう」志向性と独自性欲求が被服志向性に及ぼす影響	向居暁	県立広島大学
2-10 (BR10)	先延ばしタイプを考慮した先延ばし時の意識変化過程の検討	小浜駿	宇都宮共和大学
2-11 (BR11)	完全主義認知及び対人不安が演奏不安に及ぼす影響—共奏者の影響に着目して—	井川純一 小田千恵子#	大分大学経済学部 株式会社 JR 大分シティ
2-12 (BR12)	メディア・リテラシーと情報入手媒体との関連	野村竜也 堀井駿#	龍谷大学先端理工学部 龍谷大学先端理工学部
2-13 (BR13)	ストレスマインドセットと精神的健康との関連性に感情が媒介する—女子大学生を対象とした調査から—	劉艶艶	お茶の水女子大学
2-14 (BR14)	スマートフォンゲーム依存傾向測定尺度の作成の試み	上倉千穂 藤山静玖# 渡邊舞 佐藤祐基	北星学園大学 北星学園大学 豊岡短期大学 北星学園大学
2-15 (BR15)	加害者を支える人びとが支援者となるまでのプロセス—複線径路・等至性モデリング(TEM)による分析—	佐藤あつみ 若林宏輔 安田裕子#	立命館大学大学院人間科学研究科 立命館大学 立命館大学
2-16 (BR16)	Sense of Coherence と個人志向性・社会志向性との関係	磯和壮太郎	くらしき作陽大学
2-17 (BR17)	曖昧さ耐性と精神的健康の関連における適応的諦観の媒介効果の検討	友野隆成	宮城学院女子大学
2-18 (BR18)	二百五十戒の因子構造と基準関連妥当性—破戒傾向とダークパーソナリティの関係—	牟田季純 中村奈々恵# 阿部哲理# 石川遥至# 越川房子#	早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学部（卒業） 早稲田大学大学院文学研究科 早稲田大学文学学術院 早稲田大学文学学術院
2-19 (BR19)	日本語版不適応/適応的コーピング尺度(MAX)の作成	西口雄基 石川亮太郎# 石垣琢磨#	東京大学 大正大学 東京大学

2-20 (BR20)	コラージュ制作方法の制限がシェアリング時の発言に及ぼす影響	竹内いつ子	川崎医療福祉大学
		寺崎正治	川崎医療福祉大学
		武井祐子	川崎医療福祉大学
		門田昌子	川崎医療福祉大学
		林秀樹	就実大学
		岡野維新	川崎医療福祉大学
2-21 (BR21)	身近な他者への援助要請へのセルフステイグマ尺度の作成—自尊感情への脅威についての側面からの妥当性の検討—	澤原光彦#	川崎医療福祉大学
		永井智	立正大学
		木村真人#	大阪国際大学
		飯田敏晴#	立教大学
2-22 (BR22)	コロナ禍における買いだめ意図・行動とパーソナリティ特性の関連	廣井いずみ#	愛知みずほ大学
		吉野伸哉	早稲田大学大学院
		下司忠大	早稲田大学文学学術院
		橋本泰央	帝京短期大学
		小塩真司	早稲田大学文学学術院
2-23 (BR23)	ホームシックネスとうつ・不安の関連性について—研究のための事前調査—	Lee Steve K	早稲田大学大学院
		松葉百合香	早稲田大学大学院
		原口幸	早稲田大学大学院
		岩崎美奈子#	早稲田大学人間科学学術院
		井原成男#	早稲田大学人間科学学術院
		中谷智美	甲南大学大学院人文科学研究科
2-24 (BR24)	催眠状態期待尺度の因子構造の再検討	大浦真一	東海学院大学
		今井田貴裕#	甲南大学
		福井義一	甲南大学

ポスター発表3 9月12日(土) オンライン開場時間：9時30分～11時30分

在席責任時間 奇数番号：9時30分～10時30分 偶数番号：10時30分～11時30分

※番号の下の(BR●)は Remo でのブレイクアウトルームの番号です。

※#は非会員

3-1 (BR1)	女子青年のアイデンティティ発達と進路 選択時の母親とのコミュニケーション	高橋彩	津市立三重短期大学
3-2 (BR2)	フォーカシング中の解釈レベルを測定する試み	高沢佳司 中山真	皇學館大学 皇學館大学
3-3 (BR3)	推論の誤りとドロップアウトに関する意思決定との関連	稲垣佑 高沢佳司	皇學館大学 皇學館大学
3-4 (BR4)	中年期女性のエゴ・レジリエンスと時間的展望—2次的コントロールを介して—	畑潮 小野寺敦子	エゴレジ研究所 目白大学
3-5 (BR5)	対人コミュニケーション能力における高低群の認知的特徴—テキストマイニング解析からの検討—	岸野雄次 百瀬太喜#	所属なし 桜美林大学大学院
3-6 (BR6)	自己愛と共感性、共感スキルの相互影響関係(1)—交差遅延効果モデルを用いた短期縦断的検討—	中山留美子	奈良教育大学
3-7 (BR7)	高齢者向けネットシステムの開発と実践(1)—インターネットでの交流によるウェルビーイングの促進効果の検討—	桂瑠以 橋本和幸 北原靖子#	川村学園女子大学 了徳寺大学 川村学園女子大学
3-8 (BR7)	高齢者向けネットシステムの開発と実践(2)—インターネットでの交流によるネットリテラシー変容の検討—	橋本和幸 桂瑠以 北原靖子#	了徳寺大学 川村学園女子大学 川村学園女子大学
3-9 (BR8)	アタッチメント・ネットワークに関する地方と都市の比較—対人関係様式のレビューを通じた臨床的支援への足場かけ—	原口幸 LEE STEVE 松葉百合香 板野蛍	早稲田大学大学院人間科学研究科 早稲田大学大学院 早稲田大学大学院人間科学研究科
3-10 (BR9)	大学新入生のアタッチメント対象の変化	古村健太郎 竹原彩乃#	弘前大学 株式会社 HARP
3-11 (BR10)	ナルシシズムにおける誇大型・過敏型とその調整要因-社会的スキルに着目して-	澤田奈々実	早稲田大学
3-12 (BR11)	日本語版五因子自己愛目録短縮版の開発と妥当性確認	戴琦	早稲田大学文学研究科

3-13 (BR12)	恋愛版時間的展望尺度の作成(1)—恋愛版 時間的展望尺度の因子分析—	高坂康雅 金田智代 川越彩香	和光大学 鶴が丘ガーデンホスピタル 若葉クリニック
3-14 (BR12)	恋愛版時間的展望尺度の作成(2)—恋人の 有無及び性別による恋愛版時間的展望の 比較—	金田智代 川越彩香 高坂康雅	鶴が丘ガーデンホスピタル 若葉クリニック 和光大学
3-15 (BR12)	恋愛版時間的展望尺度の作成(3)—恋愛版 時間的展望と恋愛イメージ, 時間的展望と の関連—	川越彩香 高坂康雅 金田智代	若葉クリニック 和光大学 鶴が丘ガーデンホスピタル
3-16 (BR13)	ナルシシズムのサブタイプと向社会的行 動との関連	大辻みずき	お茶の水女子大学大学院人間文 化創成科学研究科
3-17 (BR14)	成人期における複数のアタッチメント対 象—アタッチメント機能尺度の作成—	村上達也 古村健太郎 戸田弘二	高知工科大学 弘前大学 北海道教育大学
3-18 (BR15)	イラショナルビリーフ, オーバーコミット メントと転職意向の関連	森本康太郎	大阪国際大学
3-19 (BR16)	自己ナラティブの共同構築に関わるメン タライジングプロセスの質的検討—大学 院生を対象とした物語ワークの予備的分 析—	松葉百合香 LEE STEVE 原口幸 岩崎美奈子# 井原成男# 桂川泰典	早稲田大学大学院 早稲田大学大学院 早稲田大学大学院 早稲田大学 早稲田大学 早稲田大学
3-20 (BR17)	仮想的有能感と自己愛(2)——「有能感」 に注目して——	澄川采加 稲垣勉 島義弘	鹿児島大学大学院 鹿児島大学教育学系 鹿児島大学教育学系
3-21 (BR18)	パーソナリティ障害傾向の自己呈示と現 実自己の不一致が自尊感情に及ぼす影響	櫛引夏歩 望月聡	筑波大学大学院人間総合科学研 究科 法政大学現代福祉学部
3-22 (BR19)	レジリエンスの変化はどのように想定さ れるか—過去・現在・未来の自分が有する ポジティブ特性の比較—	平野真理	東京家政大学
3-23 (BR20)	非当事者の視点から見るFTMとMTFへの イメージの違い—インタビューの質的分 析によるカテゴリーの生成—	陳曦 守谷順 脇田貴文#	関西大学大学院心理学研究科 関西大学社会学部 関西大学社会学部
3-24 (BR21)	非緩和共同性と友人関係満足度の関連— 性差との交互作用に注目して—	萩原千晶 小塩真司	早稲田大学文学研究科 早稲田大学文学学術院

3-25 自分を自分の名前で呼ぶ女性は自 津田恭充 関西福祉科学大学
(BR22) 己愛的か？ステレオタイプと実際のパーソナリティ